

日本労働年鑑 第56集 1986年版

The Labour Year Book of Japan 1986

第一部 労働者状態

I 労働経済の動向

4 派遣労働者の性格と派遣労働の実態

本年鑑八四年版の特集で、派遣労働問題を取り上げた。その後、派遣労働にかんする実態調査が公表されたので、その調査によって派遣労働者の性格と労働実態を取り上げる。

派遣労働のタイプ

労働者派遣事業は、いくつかのタイプからなる。たとえば、労働者派遣事業は、雇用契約のあり方からみて大きく二つの類型に分けることができる。一つは、情報処理サービス業やビルメンテナンス業などにみられ、自己が雇用する労働者を派遣するものである。もう一つは事務処理業などにみられ、派遣労働者は派遣元会社に登録されており、派遣先への派遣が決定すると同時に派遣元会社との雇用契約関係が発生するというものである。派遣先から依頼があると登録者のなかから適任者を選び、本人の同意を得たうえ雇用し、依頼先企業に派遣することになる。前者が「常用雇成型」の派遣で、後者が「登録型」の派遣である。「登録型」の派遣では、派遣期間が、派遣元会社と派遣労働者との雇用契約期間であることが多い。また、派遣事業の労働者構成は、業種や職種によって多様である。ここではビルメンテナンス業、情報処理業、事務処理業の三つの人材派遣業を取り上げ、派遣労働の実態と派遣労働者の構成を分析する。

調査

労働省職業安定局『業務処理請負事業における派遣的労働の実態(職業別労働力実態調査結果)』(八四年一二月)は、八三年九月から一〇月にかけてビルメンテナンス業、情報処理業および事務処理業を営む事業所のうち、派遣的労働者を雇用している約二四〇〇の事業所を調査している。この調査は同時に、これらの調査事業所に雇用される派遣的労働者のうちから一定の方法で抽出した約六〇〇〇人について個人調査をおこなっている。以下、とくに言及しないかぎり資料は本調査による。

派遣労働者の性格

〔雇用形態〕「登録型」の派遣労働者を有する事業所は事務処理業に多く(七六・六%)、ビルメンテナンス業(二・二%)と情報処理業(〇・九%)はきわめて少ない。さらに、派遣労働者(登録労働者:調査日に登録されているが派遣されていない労働者+派遣的労働者:調査日に事業所が雇用し派遣している労働者)に占める登録労働者の比率は、ビルメンテナンス業(〇・一%)、情報処理業(〇・六%)、事務処理業(六九・三%)となる。このように「登録型」の派遣労働は事務処理業に特有の形態とみることができる。

調査日に雇用され派遣されている派遣労働者の雇用形態は、ビルメンテナンス業と情報処理業では常用雇用がほとんどである。この二つの業種では、「登録型」の派遣がきわめて少なかったことか

らも推測されるが、この両業種の派遣労働者は「常用雇用型」といえる。これにたいして事務処理業の雇用形態には、日雇雇用が七六・二%と多く、これに臨時雇用が一九・七%でつづき、常用は四・一%にすぎない(第30表(b))。事務処理業は、「登録型」の派遣が主であったため、派遣先が決まり派遣元の企業との雇用契約は期間を定めたものであり、事実上臨時雇用ないし日雇雇用の契約となる。ちなみに、『マンパワー・ジャパン新規顧客調査』(八三年)によると、企業が事務処理業の派遣社員を活用する期間の多くは、一週間以内と比較的短期間である(一日一七%、一週間以内三七%、二、三週間一五%、三週間以上三一%)。派遣労働の短期利用が多いことがこうした雇用契約を生じさせるといえる。

〔性別・年齢構成〕 男子の割合は、ビルメンテナンス業(三九・三%)、情報処理業(六四・二%)、事務処理業(五・六%)である。事務処理業は女子中心の業種といえる。年齢構成では、ビルメンテナンス業の年齢が男女ともきわめて高く、他方、情報処理業と事務処理業は比較的年齢が若い(第30表(a))。後者では、情報処理業の年齢構成が低く二〇歳代が中心で、事務処理業は三〇歳代が多い。事務処理業の年齢構成が三〇歳代に集まっていることは、学校を卒業してから企業に勤め、その後派遣社員として働こうとしたものが多いことによろう。なぜなら、派遣社員として登録されるにはなんらかの技能や専門知識を習得している必要があり、人材派遣会社の多くは実務経験を有することを登録の条件にふくめているので、学卒後すぐには登録できないことによる。こうした実務経験重視から年齢構成がやや高くなるといえる。

〔職種構成〕 各業種の職種構成は、男女によって異なる(第30表(c))。なお、事務処理業は女子が大多数であることから、女子の職種構成を取り上げる。ビルメンテナンス業では、男子は女子に比較して多様な職種に従事しているとはいえ、清掃・ガラスふき・洗浄員が半数を占め、これに冷暖房設備などの管理業務がつづいている。これにたいし女子のほとんどは、清掃・ガラスふき・洗浄員として記置されている。ビルメンテナンス業の年齢構成は高いが、職種によって年齢構成が異なる。清掃や駐車場管理などは高齢者が配置されているが、設備管理などは若年者が配置されている。後者には、資格などの取得が義務づけられていたり、専門知識が必要な仕事が多いことによる。

情報処理業も、男子と女子では従事している職種に差がある。男子では、システムエンジニア・プログラマー(六七・七%)とオペレーター(二八・二%)がほとんどである。これにたいして女子では、システムエンジニア・プログラマー(九・七%)もみられるが少なく、ほとんどはキーパンチャー(七八・〇%)である。

事務処理業は他の二つの業種と異なり、従事している職種が分散している。事務処理業は、きわめて多様な職種に労働者を派遣しており、オフィス業務のほとんどすべてをカバーしているとさえいえる。

日本労働年鑑 第56集 1986年版

発行 1985年12月5日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年8月15日公開開始

